和光市総合福祉会館構成施設及び和光市生活介護施設（知的障害者）指定管理者選定委員会　会議録

会 議 名	和光市総合福祉会館構成施設及び和光市生活介護施設（知的障害者）指定管理者選定委員会
開催日時	令和６年６月２４日（月）９時２０分～１５時００分
開催場所	３階　庁議室
出 席 者	(1) 委員長　福　祉　部　長　長坂　裕一 (2) 委　員　企　画　部　長　大野　久芳 (3) 委　員　福　祉　部　次　長　細野　文裕 (4) 委　員　障　害　福　祉　課　長　三富　応樹 (5) 委　員　日　本　福　祉　大　学　渋谷　篤男
議　　事	１　就労継続支援Ｂ型施設（精神障害者） ２　生活介護施設（知的障害者） ３　生活介護施設（身体障害者） ４　就労継続支援Ｂ型施設 ５　まとめ

１　就労継続支援Ｂ型施設（精神障害者）

＜医療法人寿鶴会　菅野病院＞

質疑応答

・地域福祉の連携はどのように行っているか。

→近年、障害者の方が親の介護をしながら、施設に通っているケースが増えてきた。過去、内科と精神科で別々の病院であったが、統合してひとつの病院になったことから、あらゆる面での対応が可能となった。そのことから自身の障害だけでなく、日常の悩みを含めて総合的に相談に乗れるような体制を整えられている。

・活動の新規案件の開拓はどのように行っているか。

→当初、この事業を始めたときは、病院色を出さないように、関連する活動を行わないようにしていたが、近年は病院であることを生かして、病院事業で外部委託していたような作業で、受託できる事業は積極的に回してもらえるように変更を行った。その結果、作業を行える活動が増えてきている。

・利用者の満足度などの確認は行っているか。

→定期的にアンケート調査をおこなっており、そこで出た意見については、実施の都度結果を職員に共有して、向上に繋がるように努めている。

・利用者は徐々に増加を見込んでいるが、職員体制は現体制のままで運営を行えるのか。

→１日平均１５～１６名利用者が来ており、常勤４人、パート３人で対応している。現在余力があり、残業も発生していないことから、利用者が増えても問題なく対応できる

と見込んでいる。
・医療機関が参加することで専門的なリソースを提供できると掲げているが、具体的にどのような事を行っているのか。
→カウンセリングを受けたい利用者がいれば、無料で受けられる手配を行うなど、病院と連携したサービスの提供を行っている。

２　生活介護施設（知的障害者）

＜社会福祉法人　和光市社会福祉協議会＞

質疑応答

・指定管理料について、提案の中で増加している印象を受けた。具体的に説明してほしい。
→この５年間も指定管理料をもらい運営してきたが、赤字が続いて苦しい状況が続いている。以前に比べて、入所の流れが変わってきている。株式会社の参入や市外の送迎の増加による利用者の変化や、物価や賃金の上昇などの変化から、現状維持での運営が難しくなってきている。
・障害者施設としての機能だけでなく、利用者の生活そのものを総合的に支えられるように運営している印象を受けたが、そこがアピールポイントととらえてよいか。
→よい。
・新規利用者７名を目標としているが、達成するために課題と感じていることはあるか。
→さつき苑の利用者となる人は、他害行為をする人や区分の高い人が多く、支援の手がかかること、また近年は、放課後等デイサービスからそのまま施設入所する人や、一般就労をする人が増えており、生活介護の利用者は以前に比べると減少していることが課題と感じる。
・虐待防止のチェックリストを実施しているとのことだが、ここから未然に防げたような事例はあるか。
→チェックリストには、自由記述欄があり、職員のここが分からないというような疑問に感じていることを知ることができ、普段の業務の中では気付けない、小さな気づきがある。直接虐待を防止できているかというと少し外れるかもしれないが、こういった分からないことやこうした方がいいという意見を集めることで、虐待の起きにくい環境づくりに役立てられていると感じている。

３　生活介護施設（身体障害者）

＜社会福祉法人　和光市社会福祉協議会＞

質疑応答

・最終的にどういう姿が求められる姿だと考えるか。
→プレゼンテーションで説明した、入浴、リハビリなどの５つの特徴が他の施設にはない特徴であると考えている。区分４以下の方については、介護保険を利用して来られている方も多い。他の施設を利用できなかった方を多く受け入れて、５つの特徴で

地域にないサービスを提供していくことが求められていると考えている。そして、そこに加えて地域との繋がりを提供できるというところが社協がやる意味であると捉えている。
・入浴は入所施設でもできる。そことの違いはどう捉えているか。
→地域で過ごす、自宅で過ごす、自分の根付いた場所で生活したいという希望を叶えて入所しなくても過ごせるような場所になるということが、当施設でしか提供できないサービスであると考えている。
・職員の人員確保についてはどう考えているか。
→当施設に登録されている利用者は約４０人。入浴には１回に２人職員が必要。男性職員は５～６人で回している。全員がどの利用者であっても対応できるように研修を日々している。同じ総合福祉会館内には、過去施設で働いていた職員もいるため、緊急時には人員を確保することができると考えている。
　社協の施設の中でも、重度の方が多い施設であり、専門性が高くなっている。今までは非常勤の職員を入れて対応していたが、近年は難しくなってきている。そのことから常勤率が高くなってきていて、さらに、体力的な負担も大きいことから、加算もするようにしているため、他より人件費が高くなっている面がある。
→処遇改善で加算については対応できているのか。
→一昨年の後半から処遇改善をもらえており、他の施設との差をつけられるようになった。入浴介助をする人が他の施設の職員と一緒となると少し比重が違うという面もあり、また送迎業務もあることから、介護度が大きく違う。昨年の収入が増えているのは、処遇改善をもらえるようになったところで増加している。
・利用者の声はどのように集めているか。
→満足度アンケートを年度末に行っている。また、日々の会話の中や家族が送迎に来る方については、迎えに来た時に、会えない家族には連絡帳を毎回やり取りしているので、その中で意見を集めている。
→良い意見が多いか。
→基本的には肯定的な意見をもらうことが多い。要望として上がっているのは、市外の利用者から迎えに来てほしいというもので、送迎は市内のみとなっていることからこのような意見が出ている。
・利用者数の今後の予想をどのように立てているのか。
→令和５年度は１日あたりで１人減った計算になり、令和６年度もさらに１日１人減るのではないかと今年度３か月経過して予想立てている。この３か月は人の出入りが多かったことから、現在いる利用者で入浴を増やしたい人に利用時間を増やしてもらって調整をするなどをして、利用者の人数としては減ってしまっているが、空いている枠は減らすことができている。入浴で利用を断っていた方も多いので、ニーズに合わせて対応しているため、利用者数については減ることを見込んでいる。
　新規の利用者について、重度の方の新規の相談はないが、区分３～４の比較的軽度の方の相談は何件かきている。支援学校から入ってくる見込みは今後数年ない。定期的に新しい人が入ってくるのが理想だが、現状は今いる人の日数を増やすことで対応

している。
・指定管理料について、数字だけでみると大きな変化に捉えられる。収入を増加させるための取り組みについて聞きたい。利用時間を増やすなどの検討はしているか。
→時間については総合福祉会館の開館時間の９時から１６時と捉えている。送迎をなるべく早く、なるべく遅くして、利用時間を最低６時間取れるように４月から調整を行った。施設でできる最大限の努力はしている。どうしても障害の特性上６時間いられない方や入浴だけで帰ってしまう人もいるので、全員を６時間以上とするのは難しい。市外の人の送迎についても、利用時間が減ってしまうため対応は今後も難しいと考えている。
・指定管理料がゼロだったところから、必要となってさらに年々増加していくと試算してもらっているが、これは制度が変わって人件費が上がってしまうことのほかに理由はあるか。
→昨年度のマイナスについては、利用者が減ってしまったことにより収入が減ってしまったことがある。それに加えて制度改正によって減算となっている。

４　就労継続支援Ｂ型施設

＜社会福祉法人　和光市社会福祉協議会＞

質疑応答

・現在指定管理を担ってもらっているが、今期４年半の自己評価はどうか。
→コロナ禍の運営だったというところがポイントであると考える。現在の利用率は９０％と元気に通ってもらえているが、コロナが流行り始めた当初から、在宅を駆使して繋がりを維持しながら、生活支援をしつつ作業を継続することができたと思っている。
・満足度調査について、良い意見が多くみられる。その中でマイナスの意見はあるのか。
→満足度調査は利用者と家族から行っている。利用者からは〇〇さんが嫌だなど具体的な意見がある。障害特性同士がぶつかるものもあるため、上手く調整しながら作業をしてもらっている。家族からは少数、工賃を上げてほしいという意見がある。令和３年～４年にかけて工賃が上がった時があり、その時はもっと上げてほしいという意見が増えた。やれることが増えることで工賃を増やすことができるという家族側の気付きになっているのではないかということを分析することができた。
・これから先の運営についてどう考えているか。
→仕事を通してやりがいを感じてもらう場であるため、少しずつ工賃の向上を目指していく。また、利用者の高齢化が進んでいるため看護師を入れて健康支援を図っていく。しかし、施設の居心地が良くなって、そのまま在籍して高齢化していくと定年がないため、６０歳７０歳になっても通いたい人が残ると、作業効率が落ちて工賃が下がってしまうという懸念もある。グループホームから施設に通っている利用者もいて、日中活動支援の場としての面もある。利用者の日常支援をするために、どう運営していくかということも考えていかなければならないと思っている。

また、総合福祉会館自体の来客者数が近年は伸び悩んでおり、中でカフェを開いて待っていてもなかなかお客さんがこない。外の販売についても考えていかなければならないが、職員の手が必要になるし、配達をするのも障害者の方のため、なかなか難しい。そのため、新しい販売拠点が必要だと考えている。販路を広げる方法を模索している。

・今期の就労実績はどうか。

→この５年間で就労支援ができた方はいない。就労したいと考えている利用者は現在２名、いずれ就労したいと考えている利用者は２～３名。就労してまた戻ってきている方もいるため、再び出ていけるように力を蓄えられる場所にもなれるよう支援していきたい。

・利用者の入れ替わりについて。

→居心地が良いから就労に繋がる利用者がいないという意見は今までも多数もらっている。適度な仕事量で満足するような層は仕方ないと思うが、上手くこの人なら働けるという人には外での活動を通して、就労に繋げられるように取り組んでいきたい。

５　まとめ

各施設の発表団体、各審査員の評点の平均が 70 点以上となったことから、それぞれ候補者として選定する。